

金見崎ソテツトンネルと金見崎展望所

200メートルにわたって並び、シダのような葉を持つヤシは、金見崎の海岸線に向かって延びる絵のような長いアーチを形づくっています。この古代から存在する樹の葉が密に茂る下の曲がりくねった道は亜熱帯の島の雰囲気醸し出すとともに暑さからしばし逃れられる木陰を与えてくれます。

このヤシ（実際は日本語でソテツと呼ばれる cycads）は少なくとも3世紀の間ここに立っています。もともとは、地元の畑の境界を示し、近くの家から吹き込む風から作物を保護するために植えられました。

毒蛇のハブが木々の間から現れることがあるので、道の真ん中を歩くようにしてください。このヘビは琉球諸島の固有種ですが、近年ではハブに咬まれることは非常に稀なので安心してください。

ソテツトンネルの向こう側にある金見崎展望台からは、トンネルの青々と茂る葉と周辺の景色、東シナ海と太平洋、さらに良く晴れた日には与路島・請島・加計呂麻島を見渡す壮観なパノラマが望めます。また、数キロメートルの沖合にあるダイビングと釣りに人気のスポット、トンバラ岩も見えます。

金見の海岸もまた印象的です。浜には、黒い岩（砂岩と泥岩）、一億年前に形成された石灰岩の露頭、そして強い台風によって運ばれてきた巨大な岩塊が散在しています。展望所の近くの下り道は、海岸と灯台に続いています。

展望所へは、ソテツトンネルの右側にある道路を通っても行くことができます。

金見地域は奄美群島にまたがる奄美群島国立公園の一部です。